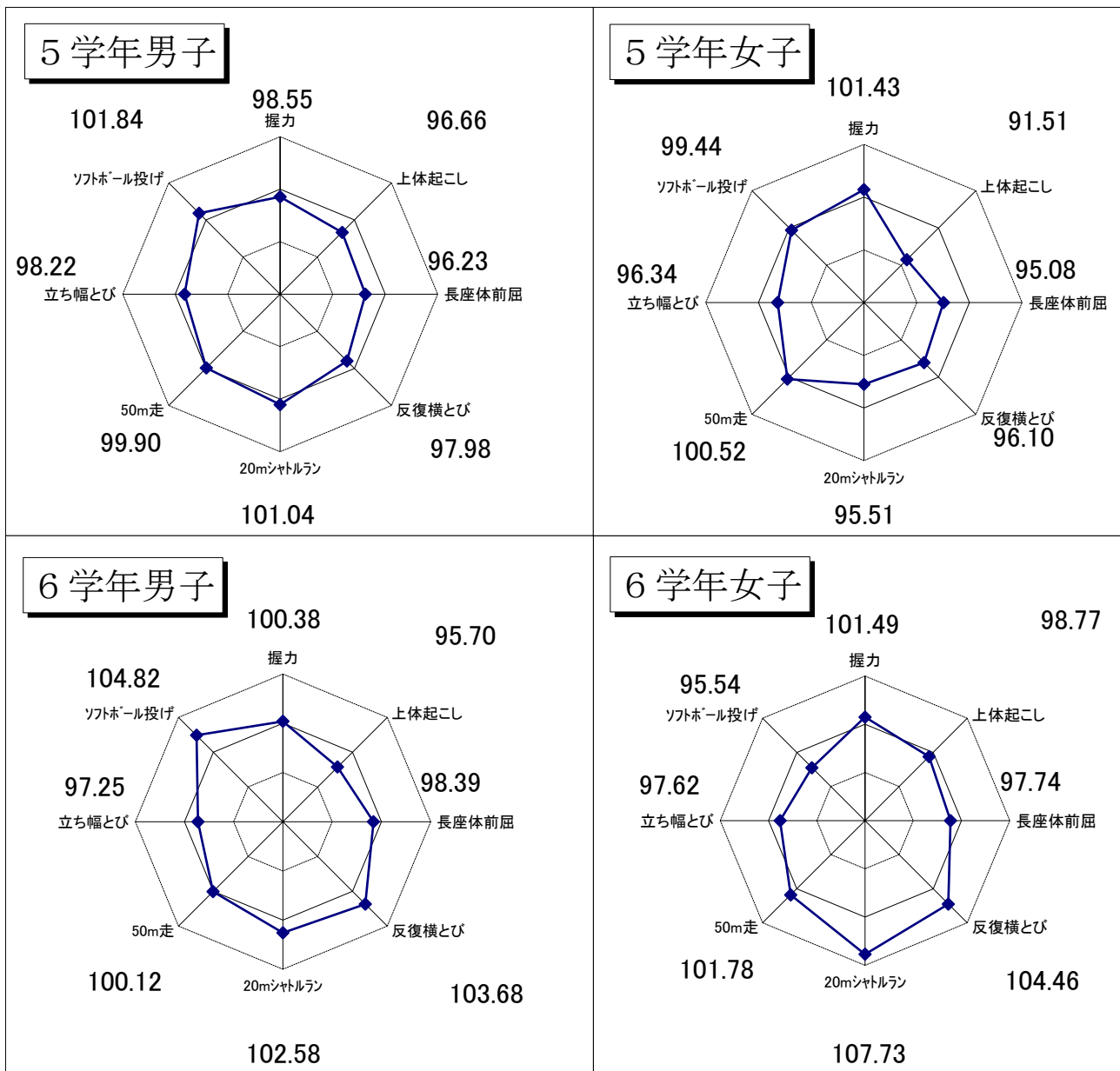


# 新体力テスト 郡平均と県平均との比較と考察

- ・グラフ中の数字は県のデータを100とした時の指数を表す。
- ・計算式は、(郡平均) ÷ (県平均) × 100である。(県平均は令和4年度)
- ・ただし、50m走については、 $200 - (郡平均) \div (県平均) \times 100$ で計算する。
- ・どの種目も指数が大きいほど能力が優れていることとなる。



## 【結果と考察】

- ・5学年男子は「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」が、5学年女子は「握力」が県平均をやや上回り、他の種目は平均かそれを下回る結果となりました。特に、5学年女子は8種目中5種目（「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」）が県平均を下回っており、体力の低下が考えられます。
- ・6学年男子は「ソフトボール投げ」「反復横とび」「20mシャトルラン」が、6学年女子は「握力」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」が県平均を上回り、他は平均かそれを下回る結果となりました。
- ・5学年男女と6学年男女を比較すると、5学年は2種目が平均以上、6学年は4～5種目が平均以上であり、6学年男女の方が体力が高いことがわかります。
- ・郡平均の推移でみると、昨年度に比べ32項目中（8種目×5・6学年男女）19項目が上昇し、13項目が下降しており、今年度は児童の体力がやや向上しました。しかし、新型コロナウイルス感染症が流行する前の平成30年度、令和元年度の記録と比較すると、児童の体力は著しく低下しています。各校の体力テストの結果を基に、体育科の単元指導計画を見直し、一単位時間のねらいを明確にした単元構成を考えたり、学校独自の運動を粘り強く続けたりすることを通して、児童の体力向上に努めていく必要があります。